



# 郷土芸能部

富山県立南砺平高等学校

〒939-1912 富山県南砺市大島1203

Tel(0763)66-2146(代) Fax(0763)66-2112



# 越中五箇山民謡

南砺市五箇山は、深い山あい昔ながらの合掌造りの集落が残り、たくさんの民話や民謡が伝えられているところです。1995年にはユネスコの世界遺産にも登録されました。ここには約800年前に都を落ちのびた平家の人々が住んだといわれます。雪深い山里で、それらの人々が心の慰めに歌い踊り始めたと伝わる「**麦屋節**」や、日本最古の民謡といわれている田楽ゆかりの田祭り踊り「**こきりこ**」などは全国的にも有名です。

また、若い娘たちの農作業の様子を表した「**早麦屋**」、悲恋物語を題材にした「**お小夜節**」、日々の暮らしの中で育まれた「**五箇山追分節**」など多くの民謡が歌い継がれています。他にも「**といちんさ節**」、「**草島節**」、「**まいまい**」、「**嫁入りいたこ**」、「**古代神**」、「**神楽舞**」、「**小代神**」、「**長麦屋**」、「**文句入り麦屋節**」など数多く存在し、五箇山は「民謡の宝庫」と呼ばれています。

## 麦屋節



麦屋節 手踊り(女)



麦屋節 笠踊り(男)



こきりこ して竹踊り



こきりこ ささら踊り

## 早麦屋



## お小夜節



## 五箇山追分節





## 郷土芸能部の活動

- ・部員は現在35名です。生徒数が64名なので、半数以上が郷土芸能部員ということになります。また、部員の8割以上が五箇山地域外から来てくれた生徒たちです。
- ・普段は放課後に2時間程、演奏を担当する地方（じかた）や踊りのパートに分かれて練習しています。
- ・衣装も自分たちで着るので、着付けや礼儀作法を身に付けることも大事な活動の一つです。



先輩から後輩へ



地元民謡保存会の指導者と地方の合同練習

- ・本校の部活動は兼部制を取り入れており、郷土芸能部だけに所属している生徒とスキー部やバレーボール部などと兼部している生徒がいます。過去には郷土芸能部で全国1位になり、運動部でインターハイに出場した二刀流の生徒もいます。
- ・活動目標は「日本一」です。それは、全国高等学校総合文化祭で最優秀賞・文部科学大臣賞を受賞し、国立劇場の舞台を踏む、というものです。その目標達成に向けて、大会二ヶ月前ぐらいから近くの「こぎりこ館」という施設を借りて夜練習を行い、地元の民謡保存会の指導者の方々の熱心な指導を受けます。大会・公演後の達成感が自信につながり、大きく成長しています。

## 郷土芸能部の歴史

郷土芸能部は、五箇山地域に伝わる民謡を学び伝承することを目的に、平成元年に設立されました。挨拶や礼儀、協調性を大切にし、福祉施設の訪問、地域のお祭りやイベントに出演して五箇山民謡の伝承と普及に取り組んでいます。

### History

- 平成 元年 郷土芸能クラブとして発足
- 6年 全国高等学校総合文化祭に初出場  
(以降、平成30年まで連続出場、令和5年までに29回出場)
- 9年 全国高等学校総合文化祭で優秀賞・文化庁長官賞受賞
- 11年 韓国江原国際観光博覧会出演（韓国）
- 18年 全国高等学校総合文化祭で最優秀賞・文部科学大臣賞受賞（念願の日本一）
- 20年 日韓交流おまつり2008出演（韓国）
- 24年 第1回全国高校生伝統文化フェスティバル出演（京都）
- 26年 全国高等学校総合文化祭で最優秀賞・文部科学大臣賞受賞（2度目の日本一）
- 29年 平昌冬季オリンピック文化公演派遣（韓国）
- 令和 4年 全国高等学校総合文化祭で最優秀賞・文部科学大臣賞受賞（3度目の日本一）
- 5年 G7富山・金沢教育大臣会合歓迎レセプション



平成20年 日韓交流おまつり2008出演

これらの大会・公演のあと、「よかったよ」「ありがとう」とかけていただく声が届みとなっています。  
学校や保護者だけでなく、地域の方全員が郷土芸能部の応援団となっています。





## 郷土芸能部 生徒の言葉



部長 3年 長谷 英里子  
(地方・太鼓)

地域外出身

私たちは、五箇山民謡に誇りを持ち、見てくださる方を楽しんでもらい、感動を与えることのできる最幸の舞台をみんなで作することを意識して練習しています。

私は、高校に入学してから初めて五箇山民謡を知りました。入部したばかりのころは、して踊りのパートでがむしゃらに練習を頑張っていました。全力で取り組み、民謡の楽しさに気づきました。今は、地方として、誇りを持って舞台上に立っています。

また、指導者の方々と熱い話し合いをして舞台を作り上げること、公演で出会う方と交流したり、全国大会で他校の郷土芸能を見て刺激を受けて頑張ろうと感じられたりすることに魅力を感じています。そんな魅力ある部活に入部して、よかったです。



3年 玉崎 蓮依  
(五箇山追分・女踊りパーティーリーダー)

地域外出身

私は、この部活を通して初めて「こきりこ」「麦屋節」以外の民謡の存在を知りました。入部したばかりの頃は、自分が今何を踊っているのかもわからないような状態でしたが、練習を重ねるうちにどんどん踊りが好きになってきました。この部活の良いところは民謡が踊れるようになること、様々な人と触れ合うことができること、そして、その人たちの感動を肌で感じられることだと思います。



唄い手に指導中



2年 河口 湧飛  
(地方・三味線)

地元出身

僕は、地域の祭りや保育園の発表会、小学校の運動会で民謡を踊ったり、中学校では三味線をひいたりしてきました。でも、だんだんと住人が少なくなってきた、大好きな民謡を続けられるか心配になることもありました。だけど、南砺平高校では、部活として五箇山民謡を伝承していて、地域外から入学した生徒もたくさん入ってくれていて、心強く思っています。民謡に興味がなかった友達を誘ったら入部してくれて、楽しんで練習していることがうれしいし、一緒に練習できることがとても楽しいです。全く知らない人にも興味を持ってほしい。そして、こんなに楽しいんだよ！と伝えたいです。



して竹踊りの指導中

## 地元の指導者の方からのメッセージ

### 越中五箇山民謡保存会 山本 諭 (H9卒)

平高校郷土芸能部に所属する生徒は、目指すレベルも高く、自ら考えて成長する過程を大切にしています。3年間の部活動をやりきることで生徒自身が技術的にも人間的にも成長できることを実感しているはず。以前、生徒がテレビの取材で「1年生の時は、何部に入っているのと聞かれ、郷土芸能部と答えるのが恥ずかしかったが、今は自信を持って答えることができる。」と語ったそうです。

私たち指導者においても、踊りや奏法、作法は勿論ですが、ただ伝統を伝承するだけではなく、高校生の若いエネルギーと豊かな想像力を加えていくことで、生徒たちが郷土芸能に新たな価値を見出だせるよう、助言や手助けをしていきたいと思っております。

これからもさらに郷土芸能部が飛躍されることを願っております。

### 越中五箇山こきりこ唄保存会 大瀬 倫子 (H11卒)

越中五箇山こきりこ唄保存会の一員としてつないできた「こきりこ」で、平高校生が日本一を目指して頑張る部活動のお手伝いができることは、本当に幸せなことですし、本気で練習し上達していく姿は毎年のことですが感動します。

五箇山の民謡保存会や平高校郷土芸能部が歌い踊る五箇山民謡を見て好きになったら、あとは勇気とやる気をもって一生懸命練習するしかありません。全国大会での日本一を目標に、部員のみならず先生方や指導者と一緒に頑張った日々は、いつか自分の支えになりますし、背中を押してくれる自信にもなります。指導者としては、郷土芸能部を通して五箇山民謡を好きになってくれたらこの上ない喜びです。